平成16年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ホッケ

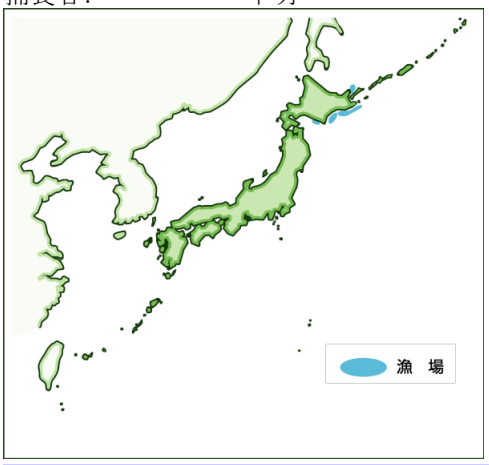
学名　*Pleurogrammus azonus*

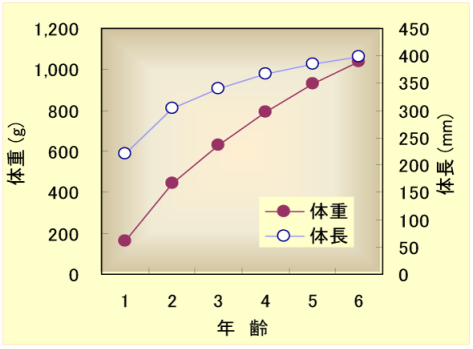
系群名　根室海峡・道東・日高・胆振

担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特性

寿命:　不明
成熟開始年齢:　1歳の終わり頃（満2歳直前）
産卵期・産卵場:　日高沖や根室海峡に形成、知床半島先端水域における産卵期は9月中～10月下旬
索餌期・索餌場:　正確な索餌場は不明、漁場域は、襟裳以西、道東、根室海峡、北方四島周辺水域の水深200m以浅に形成
食性:　仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は様々な種類の動物を捕食
捕食者:　不明



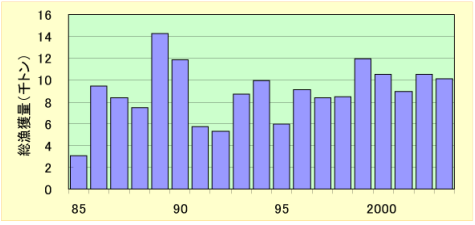


漁業の特徴

ホッケは、北海道根室海峡・道東・日高・胆振海域における沿岸漁業および沖合底びき網漁業の主要漁獲対象資源の一つである。総漁獲量の8～9割は沿岸漁業による。特に根室海峡での漁獲量が多く、刺し網によって当該海域における漁獲量の6～7割が漁獲されている。主漁期は春季の索餌期（定置網主体、0～1歳）と秋季の産卵期（刺し網主体、1～2歳）である。いずれも2歳魚以下の未成魚が主体である。

漁獲の動向

1995年以降、漁獲量は増加傾向を示しており、1999年には12,000トン強に達した。その後は若干減少したものの、近年の漁獲量は9,000～11,000トンと高い水準で推移している。

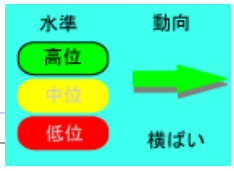


資源評価法

本海域の漁獲物は、そのほとんどが1歳と2歳で、漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析による資源量の推定に適していない。また、漁獲の大半は根室海峡の刺し網漁業によるものであり、CPUEなど漁獲量以外の資源量の指標を得ることが困難である。さらにこの漁場はロシア水域と接しており、ロシア側におけるホッケの分布量の情報が入手できないため、正確な資源評価は困難である。そこで、漁獲量の変化から資源の水準と動向を判断した。

資源状態

本海域における過去19年間（1985～2003年）の漁獲量の推移から資源水準を、また過去5年間（1999～2003年）の漁獲量の変化から資源動向を判断した。2003年の漁獲量は10,080トンで、1985年以降の漁獲量の変動幅（3,082～14,235トン）において6番目に高い値に位置することから、2003年の資源水準は高位と判断した。また1999～2003年の漁獲量は10,000トン付近で推移しており、資源動向は横ばいと判断した。



管理方策

1996年以降、資源豊度は好適かつ安定した状況を維持しているものと判断された。現行の漁獲水準を大きく上回ることがないように調整することを目標とし、ABClimit は過去5年間（1999～2003年）の平均漁獲量、ABCtargetはABClimitと同じに設定した。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	10千トン	Cave5-yr	-	-
ABCtarget	10千トン	ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析が困難
- CPUEを得ることが困難であるため、漁獲量の変化から資源評価を実施
- 過去19年間の漁獲量の推移から資源水準を、また過去5年間の漁獲量の変化から資源動向を判断

管理方策のまとめ

- 漁獲量の変化が資源の水準と動向を反映すると仮定
- 1996年以降、資源豊度は好適な状況
- 現在の資源水準を維持するため漁獲量を近年の水準に保つ

資源評価は毎年更新されます。